

平成
28年

今年の10大ニュース

10面につづき

江東区のロゴマークが決定



▲ロゴマーク

▲さまざまな活用方法で区をPR

区は3月、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として国内外に区の魅力を積極的・戦略的に発信するため、「江東区ブランディング戦略」を策定し、ブランドコンセプト「SPORTS & SUPPORTS KOTO City in TOKYO スポーツと人情が熱いまち 江東区」を体現したロゴマークを公募により決定しました。このロゴマークは、個人・企業等を問わず、どなたでも使用できます。さまざまな活用方法で、江東区の魅力を発信していきましょう。

今年は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を後世に残る素晴らしい大会にするため、「江東区オリンピック・パラリンピック開催準備プラン」と「江東区ブランディング戦略」を策定しました。また、本区が長期計画の重点プロジェクトに位置づけている、地下鉄8号線(豊洲～住吉)延伸が、国土交通省の交通政策審議会の答申に、「国際競争力の強化に資する鉄道ネットワークのプロジェクト」として位置づけられ事業化に向けて大きな弾みとなりました。子育て支援では、妊娠期から助産師等の専門職が関わり、出産や育児への不安を軽減する「ゆりかご・江東事業」のスタートや、保育待機児童の解消対策に、区内3か所目となるサテライト保育所を開設するなど、安心して出産・育児、子育てができる環境を充実させました。高齢者へは、民間スポーツクラブの利用を通じて運動の習慣化を支援する「江東マスターズフィットネス」を開始するほか、区内15か所目となる特別養護老人ホームの整備等の福祉施策を着実に実行しています。一方で、豊洲市場開場の延期や東京2020大会の会場の施設整備計画を見直す等、想定していない課題に対しては本区の揺るぎない姿勢を示してきました。来年も様々な行政課題に積極的に取り組み、質の高い区政運営を目指します。



江東区長
山崎 孝明

平成
28年を
振り返って

東京オリンピック・パラリンピックへの準備加速



▲気運醸成イベントを開催

3月末、東京2020大会を後世に残る素晴らしい大会にするため、「江東区オリンピック・パラリンピック開催準備プラン」を策定しました。また4月には「オリンピック・パラリンピック開催準備室」を設置し、推進体制を強化しました。競技会場については、追加競技のうち2競技(スケートボード・スポーツクライミング)およびパラリンピック5人制サッカーが江東区青海で開催されることが決定したほか、区内に整備予定の新規3施設について見直しが行われました。区では、より良い「五輪レガシー(遺産)」を次の世代へ残せるよう、東京都や大会組織委員会と連携し、万全な開催準備に取り組んでいきます。

▲オリンピックアクアティクスセンター

豊洲市場への移転延期



提供:東京都中央卸売市場

▲上空から見た豊洲市場

11/7に予定されていた築地市場の豊洲地区への移転が、安全性への懸念などから、東京都の一方的な決定によって、急きょ延期されました。区では豊洲市場の整備にあたり、かねてから、食の安全・安心を担保する土壌汚染対策を最優先課題と位置づけ、予定地の無害化を求めてきました。東京都からも安全性については万全の対策を講じているとの報告を受けてきましたが、事実と異なることが明らかになっています。豊洲市場の安全性について、区民や市場関係者の方々の不安を払しょくするため、詳細かつ確実に検証のうえ、早急に「安全宣言」を行うよう東京都に対して強く求めています。

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック 区ゆかりの選手が大活躍

8・9月に開催されたリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでは、江東区ゆかりの選手が大活躍しました。深川第三中学校卒業のケンブリッジ飛鳥選手が陸上4×100メートルリレーで銀メダルを獲得。バドミントンでは、日本ユニシスの高橋礼華選手・松友美佐紀選手ペアが金メダル、奥原希望選手が銅メダルに輝きました。また、区立中学校カヌー部出身の瀬立モニカ選手はパラカヌー競技で決勝に進み、8位入賞を果たしました。選手の皆さんのさらなる躍進と、東京2020大会での活躍が期待されます。



▲瀬立モニカ選手



▲ケンブリッジ飛鳥選手

今号の
主な内容

[2面] 高齢者ドライバーの交通事故多発 運転に自信がなくなった方は運転免許の自主返納を [3面] お正月の特別開館 [5・6面] 人事行政の運営状況(概要) [9面] 羽田空港機能強化に関する住民説明会

UD
FONT